

「名人」のチカラ

—第47回茨城県肉用牛共進会の成績—

今回は昨年12月、茨城県中央食肉公社にて開催の第47回茨城県肉用牛共進会に出品された、名人ユーザーの成績についてご紹介いたします。

1 受賞者

この共進会では、90頭の和牛が出品され15頭が名誉賞から優良賞を獲得しました。そのうち名人シリーズ(肉用牛肥育用配合飼料名人4号及び新名人)ユーザーは、名誉賞、最優秀賞、優秀賞1席を含む9頭が受賞しました(表1参照)。これで、3年連続で名人シリーズユーザーが名誉賞を受賞した事となりました。

2 枝肉成績

出品牛90頭の内、名人シリーズユーザーは33頭でしたが、上物率(格付4, 5の割合)は、名人シリーズユーザーが85%, 他社飼料ユーザーが56%でした。名人シリーズユーザーの枝肉成績の平均は、枝肉重量492.3kg, BMS No.7.8, ロース芯面積57.4

cm², 枝肉単価2,156円, 枝肉金額1,065,593円でした。

他社飼料ユーザーと枝肉成績を比較すると、名人シリーズユーザーの方が枝肉重量は平均で+26kg, BMS No.は平均で+2.0, ロース芯面積も+4.9cm², 販売単価も平均で+201円, 販売金額としては平均で約15万円アップとなりました。



写真 「名人」 給与出品牛 (茨城県畜産肉用牛振興研修牧場)

表1 受賞者一覧

賞	血統		月齢 (月)	枝肉重量 (kg)	格付	ロース芯面積 (cm ²)	BMS No.	単価 (円/kg)	金額 (円)
	父	母の父							
名誉賞	平茂勝	神高福	30	519.5	A-5	56	11	2,906	1,509,667
最優秀賞	福栄	安福165の9	31	477.5	A-5	69	11	2,651	1,265,853
優秀1席	平茂勝	谷福6	30	592.5	A-5	55	11	2,704	1,602,120
優秀2席	平茂勝	北国7の8	29	572.0	A-5	63	10	2,427	1,388,244
優秀3席	平茂勝	安平	27	447.0	A-5	56	9	2,522	1,127,334
優秀4席	金幸	糸藤	30	539.0	A-5	73	11	2,347	1,235,033
優秀5席	平茂勝	糸弘2	27	514.5	A-5	55	10	2,320	1,193,640
優良賞	平茂勝	安福165の9	30	473.5	A-5	53	9	2,400	1,136,400
優良賞	平茂勝	北国7の8	31	533.0	A-5	56	10	2,505	1,335,165
優良賞	北国7の8	紋次郎	29	518.5	A-5	61	9	2,241	1,161,959
優良賞	平茂勝	北国7の8	31	543.5	A-5	55	9	2,200	1,195,700
優良賞	茂糸波	奥茂	30	506.5	A-5	59	10	2,279	1,154,314
優良賞	北国7の8	神高福	30	505.5	A-5	55	10	2,200	1,122,210
優良賞	平茂勝	紋次郎	30	520.0	A-5	69	11	2,583	1,343,160
優良賞	福栄	北国7の8	29	533.0	A-5	62	9	2,370	1,263,310

：名人シリーズユーザー

表2 過去3大会における枝肉重量

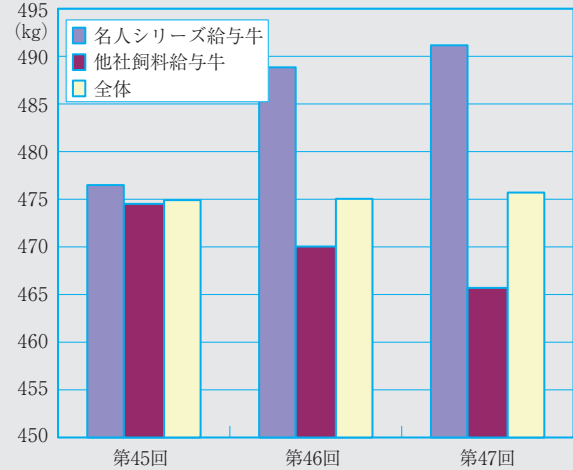
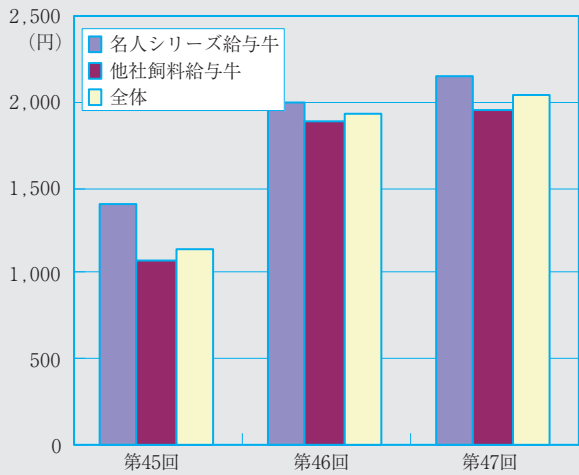


表3 過去3大会における枝肉単価



3 当社肥育用配合飼料の紹介

一般に血統7割と言われている肥育技術の中で、これまでの枝肉成績（表2，3参照）結果からも、名人シリーズを給与することにより、血統以上の良質な枝肉ができる傾向にあります。

これは、「**名人4号**」及び「**新名人**」（表4参照）の開発の際、「本来、牛が持っている能力を100%発揮させること」と「消費者が安全で本当においしいと思える肉づくり」をコンセプトに、設計や原料の吟味を行ったためです。そして、この名人シリーズを使いこなして頂く為に、技術的なフォローのための巡回も行っています。

表4 保証成分

	CP	TDN
名人4号	13.5%以上	72.0%以上
名人5号	13.5%以上	72.0%以上
新名人	13.0%以上	73.0%以上
新名人2号	13.0%以上	73.0%以上

また、これらの配合飼料の特徴としては、前期と後期に別れていないため、生産者の給餌がシンプル（**稲ワラと名人4号または新名人給与**）になります。

そして、暑熱ストレスにより採食量が低下する時期に給与する餌として、名人5号と新名人2号があります。それぞれ、嗜好性を上げるような設計をしてあり、ビタミンAのレベルも少し高めになっています。

4 素牛導入で失敗しないために

素牛導入により肥育する場合は、手間をかける必要があります。というのは、全ての素牛に対してではないのですが、現在の素牛市場では、粗飼料の給与量が少なく、配合飼料を多給されて、丸々と太った牛が少なくないからです。こういった牛の多くは、育成段階で筋間脂肪が厚くなっているため、ロース芯面積が小さく、ロースの脂肪交雑も少なくなり、枝肉の評価が下がってしまいます。また、体格の割には内臓が発達していないため、本来、配合飼料を食い込ませる時期に喰い止まりが起きるなど、スムーズな増体を期待できません。中には、配合飼料の増給に耐え切れず、軟便や下痢を起こす場合もあり、こうなってしまうと、増体どころか痩せていってしまいます。

これらのようなことを防止するためには、肥育を始める前に、「飼い直し」と言った作業が必要となります。飼い直しと言ってもごくシンプルなもので、導入から約2～3ヶ月間は、余分な脂肪を落とすことに専念するのです。この間の給与メニュー例としては、カットした良質乾草（チモシーなどの嗜好性の良いもの）を飽食させ、**名人4号**または**新名人**を約1～2kg/日程度給与します。これにより第1胃が十分に発達し、スムーズな増体を期待でき、良質な枝肉を作ることができます。

ただ、ここで注意しなければならないのが、牛は一頭一頭違うと言うことです。「飼い直し」をする際は、それぞれの牛の状態を確認しながら行って下さい。

これら名人シリーズによる肥育に関する技術的なご相談は、最寄りの営業所までご連絡下さい。

最後になりますが、この文章を執筆するにあたり、資料提供等のご協力を頂いた、茨城県畜産農業協同組合連合会に対しまして、この場を借りて厚く御礼申し上げます。